

# 令和7年度 学校保健委員会だより

医王特別支援学校

今年度の学校保健委員会は、学校医（内科）でもある医王病院の丸箸先生より、コロナ禍を経ての病院での対応、子どもたちへの心の影響についてご寄稿いただきました。

## 「コロナ禍を経て学んだこととこれから」

国立病院機構医王病院小児科 丸箸圭子先生



### 【はじめに】

新型コロナウイルス感染症はかつて経験のないくらいに医療現場、社会生活、経済などを混乱させ、私たちにも様々な影響、変化をもたらしました。当時の混乱と恐怖、不安を思い出すと今でも胸がつかくなります。現在、日常生活はほぼコロナ前に戻りつつありますが医療機関、特に当院のような長期の入院が多い施設ではすべてがコロナ前の通りとはいかないのが現状です。コロナ禍の影響や経験を振り返り、今後どのように生かしていくかをお伝えしたいと思います。

### 【病院の感染対策】

医療現場ということで今までも感染対策を講じていましたがコロナ以降、院内感染対策チームの指導の下、基本に立ち返り、より標準予防策を徹底しています。標準予防策とは、感染症の有無にかかわらず、すべての人に対して、血液、体液、汗を除く分泌物（痰や唾液など）、排泄物（尿や便）、損傷した皮膚、粘膜などの湿った物質は感染の可能性があるものとみなして対応する方法です。具体的には以下のような内容です。

- ・手指衛生：石鹸と流水による手洗い アルコール手指消毒剤による手指消毒
- ・个人防护具の使用：マスク、手袋、ゴーグル、エプロン、ガウンなど
- ・ケアに使用した器具の洗浄・消毒
- ・環境整備：清掃 消毒剤を使用した清拭、換気、空気清浄機などの使用

感染対策で重要なのは①感染源の排除 ②感染経路の遮断 ③個人の抵抗力の向上（健康管理）です。



結局のところ…  
ウイルスは最終的にどこから体内に入る？ 体外に排出される？

押さえるべき箇所は

目 鼻(耳) 口

マスク・ゴーグル・フェイスシールド  
防御と除去で機会と量を最小限に  
手指消毒・うがい

当院は密になりやすい医療的ケアや介助が多い現場であるために、いったん感染者が出るとたちまち広がってしまいます。また抵抗力が弱い方も多いため、特に呼吸器症状が重症化しやすい傾向もあります。日々の授業、学校行事、療育活動、面会方法などその時々状況と影響を考えながら対応してきました。

新型コロナウイルス感染症に関しては残念ながら数回クラスター発生がありますが、徐々にその規模は縮小しており、他の感染症の拡大は以前より抑えられています。今後ご家族の皆様、学校職員の方々にもご理解、ご協力いただきながら、真摯に取り組んでいきたいと思ひます。

### 【子どもたちへの心の影響】

コロナ禍は成長期の子どもの心にも大きな影響を与えました。

2024年度コロナ禍の子どもの心の実態調査によると神経性やせ症の初診外来患者数は2021年度にコロナ前の約1.6倍まで増加した後、2022年度は一旦減少したものの、再び増加傾向となり2024年度はコロナ前の1.5倍と高止まりになっています。男性はコロナ前の約2.7倍と増加傾向です。希死念慮・自殺企図の初診患者はコロナ前のそれぞれ1.5倍、2.3倍となっています。コロナ禍の長期化による子どもたちの学校環境（休校、行事の中止、黙食、マスク着用など）、生活環境（親の就労問題、貧困、DVや虐待、SNSなど）、メンタルヘルスへの影響は今なお残っていると考えられます。家庭・学校・行政・医療機関・福祉機関などが連携して、子どもたちのメンタルヘルスの向上に対するさらなる支援を早急に考える必要があると思ひられます。

↓詳しい内容はこちらを参照してください。

こども家庭庁「こどもの心の診療ネットワーク事業」報告  
(<https://www.ncchd.go.jp/press/2025/1127.pdf>)

当院はこのネットワーク事業の拠点病院の一つとなっており、調査にも協力していますが、やはり摂食症、不登校の患者数は増えています。個別性も高いことから医師、心理士、ソーシャルワーカー、教育機関など多職種で診療、支援にあたっています。

### 【おわりに】

まとまりのない話になってしまいましたが、今回、新型コロナウイルス感染症の流行を経験し、改めて感染対策の重要性、学びの場の確保の重要性を実感しました。今後は必要な感染対策を講じながらも、子どもたちのその時しかない大切な学び・育ちの場を保護者のみなさま、病院、学校と協力しながら守っていききたいと思ひます。

丸箸先生、  
ご教示いただき感謝申し上げます。

